キャラクター名
瀬乃美代

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー キュマイラ	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	高校生(中学生？)
オプショナル		年齢	15	性別	女
覚醒	感染	衝動	恐怖	初期侵食率	31 %
出自	疎まれた子	経験	長期入院	邂逅	友人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	2	0	0			2
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	31
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
【コンボ・Turn me on!】<赫き剣><ハンティングスタイル>	白兵	5r+1	0	なし		移動＋武器作成
【コンボ・4 Broken Heats!】<鮮血の一撃>	白兵	11r+1	0	lv*2+8		ダイス+[lv+1]　HP-2
【コンボ・Red Light Ladies!】<鮮血の一撃><血の宴><ロイヤルブラッド>	白兵	16r+1	0	lv*2+8+lv*2d		攻撃力[lv*2+8+lv*2d]　至近

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：変異種	P	N		
	P　友情	N 劣等感		
病院の先生や看護師さんたち	P　信頼	N 不快感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　4	残り財産P：　2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
CLブラム	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値-1(下限7)								
赫き剣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：+[(lv*2以下の消費したHP)+8]の武器データ作成								
鮮血の一撃	5	2	メジャー	武器	-	<白兵>	-	
効果：白兵攻撃ダイス+[lv+1]　HP-2								
ヘルズブラッド	1	4D10	オート	至近	自身	自動	120	
効果：ダメージロール+[lv*2]D								
ロイヤルブラッド	1	3	M/R	-	-	シンドローム	Dロイス	
効果：判定ダイス+5								
血の宴	1	3	メジャー	-	範囲(選択)	シンドローム	-	
効果：攻撃を範囲(選択)に変更する								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：戦闘移動を行う。離脱可、封鎖の影響を受けない。								
不死者の血	1	-	常時	至近	自身	自動	EF	
効果：ブラムストーカーのエフェクトによってHPを失わない								
毒持つ獣	1	-	常時	至近	自身	自動	EF	
効果：憎悪と暴走以外のバステからlv個選択しそれを全て与える								
巨神獣化	3	-	マイナー	至近	自身	自動	EF	
効果：HP+50　攻撃力+[lv*5]　ドッジ不可								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								

目が見えず足も動かない、身体的な疾患をもって生まれてきた哀れな少女。
その障害ゆえに愛を注ぐはずの家族からは疎まれ、幼少期のほとんどを病院で過ごす。
病院では、姿を見せない家族の隙間を埋めるように、心配してくれる看護師や医師と親しくなった。
彼らとの親交は結果として彼女に生来あった明るく気丈な性格を開花させる。
しかし学校に通う年齢になっても家族との関係は変わらず、彼女は病院関係者に力を借りながら、
音を頼りに自身で車椅子を押しながら、学校に通うこととなる。

学校で彼女は初めて同じ年頃の友人ができた。
初めて、大人の硬い手ではない少女の手の温かさを知った。
その存在は彼女の日常を輝かせたが、この目が見えれば、この足が動けば、という思いをも生み、それは強く心をえぐった。

彼女は決して自身の境遇に絶望してはいなかったが、その心の片隅の暗澹たるものを拭い去ることは出来るはずもなかった。
彼女は暖かい誰かの手を取ることができた。彼女は陽だまりで誰かと笑い合うことができた。
しかし、彼女は真っ暗で冷たいこの上なく孤独な世界で生きていたのだった。
そして彼女は出会う。
彼女を救う魔法に。
彼女を変える誰かに。

○願い
陽だまりに生きるための強い身体が欲しい